

巻 頭 言



埼玉県知事 上田 清司

「埼玉から世界へ 世界から埼玉へ」

埼玉県は、交通網が発達し多様な産業が集積する一方、緑豊かな自然環境に恵まれた地域です。加えて、4年後に迫る東京オリンピック・パラリンピックでは、本県でもバスケットボール、サッカー、ゴルフ、射撃競技が開催されるなど、本県を一層活性化するチャンスも控えています。これからは、こうした本県の優位性を十分に生かし、地球規模の視点から発想し行動するなど、県民や企業が夢に向かって挑戦できる社会をつくる必要があります。

本県は、平成23年に、当時、地方自治体としては破格の10億円を出資してグローバル人材育成基金を創設し、海外へ留学する若者への奨学金の支給や県立高校生のハーバード大学などへの短期派遣、民間企業の若手社員の海外研修支援などを幅広く支援してまいりました。奨学生については、毎年約280人、6年間で約1,600人を53か国へ送り出しました。送り出すだけでなく、帰国してからの地元企業への就職につながるマッチングも行っています。将来、世界と埼玉県との懸け橋になるような人材に成長することを大いに期待しています。

また、本県では、アジア諸国とさまざまな分野で交流を進めながらアジアの発展に貢献するとともに、成長著しいアジアの活力を取り込む「埼玉・アジアプロジェクト」に取り組んでいます。

私は去る10月に、フィリピンとタイ、インドネシアを訪問しました。今回の訪問で、本県はフィリピンのセブ州と「人材育成に係る覚書」を締結し、また、同行した県内の大学もセブ州や現地大学と交流促進のための協定書を締結しました。これを契機に、行政、大学、企業などの関係者に新たなネットワークが生まれ、両県州の間でさまざまな交流が進むことを期待しています。

また、県内企業の海外進出を支援するため、中国、タイ、ベトナムに現地サポートデスクを設置しています。今回の訪問では、インドネシアでも現地進出企業によるネットワークを設立しました。

近年急増している外国人観光客の誘致への取組としては、平成28年8月、高校生の海外教育旅行に力を入れており日本への一般観光旅行客も増えている台湾に、埼玉国際観光コンシェルジュを設置したところ です。東京と近接してアクセスがしやすいことや、川越や秩父といった魅力ある観光地を有することをPRしていきます。

私は、すべての県民が夢や希望を実現できるチャンスあふれる埼玉を築くために、国際交流や国際化推進施策を積極的に推進してまいります。